

ビジネスオンラインミーティングのセキュリティに関する ユーザ意識調査

梅本 莉奈子^{1,a)} 金井 敦¹ 畑島 隆² 谷本 茂明³

概要: ビジネスオンラインミーティングの利用者は、働き手のニーズ多様化や政府主導の「働き方改革」の後押しにより増加し、2020年のCOVID-19の影響によってもさらに増加している。反面、サービスの脆弱性や利用者の不十分なITリテラシーをついた攻撃やトラブルも指摘されている。本論文ではまず、ビジネスオンラインミーティングに対する意識調査として、35項目の選択式設問と5項目の自由回答式設問からなる質問紙を作成し、社会人726名を対象にWebアンケート調査を行った。分析の結果、利用頻度は週5時間未満が約半数、5~20時間未満が約半数であることや、利用場所は自宅や自社専用スペースが大半であるなどの知見を得た。また、利用時の所感については、心理的疲労が存在することや、セキュリティ対策が十分だと言い切れないこと、サイバー利用や物理的な環境からの情報漏洩の懸念が大きいことなどの知見を得た。これらの知見を基に、あるべきビジネスオンラインミーティングの姿として、企業における利用ガイドライン策定や利用者のITリテラシー向上及び維持などを提言し、誰もが安心して利用できる環境実現への有効性の検討結果を報告する。

キーワード: オンラインミーティング, セキュリティ, 意識調査

User Awareness Survey on Security for Business Online Meetings

Rinako Umemoto^{1,a)} Atsushi Kanai¹ Takashi Hatashima² Shigeaki Tanimoto³

Abstract: The number of users of business online meetings is increasing due to the diversification of worker needs and the support of government-led “work style reform”, and is further increasing due to the impact of COVID-19 in 2020. On the other hand, attacks and troubles with service vulnerabilities and insufficient IT literacy of users have also been pointed out. In this paper, as an awareness survey on business online meeting, we created a questionnaire consisting of 35 multiple-choice questions and five free-answer questions, and conducted a Web questionnaire survey of 726 working adults. As a result of the analysis, it was found that about half of the users use less than 5 hours a week and about half of them use less than 5 to 20 hours, and that most of the places of use are at home or at work. In addition, regarding the impression when using it, we obtained knowledge that there is psychological fatigue, that it cannot be said that security measures are sufficient, and that there is a great concern about cyber use and information leakage from the physical environment. Based on these findings, we propose the formulation of usage guidelines in companies and the improvement and maintenance of IT literacy of users as the ideal form of business online meetings, and examine the effectiveness of realizing an environment that anyone can use with peace of mind.

Keywords: Online Meeting, Security, Awareness Survey

1. はじめに

ビジネスオンラインミーティングとは、ビジネスにおける会議などを、サービスツールを用いてオンライン上で行うものである。「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」や「育児介護との両立など、働き手のニーズの多様化」といった課題解決のため多様な働き方を選択できるよう、政府主導で推進されている働き方改革の後押しがあり、ビジネスの場におけるオンラインミーティングの重要性は高まりつつある[1]。さらに、2020年のCOVID-19の影響は大きく、テレワークを行う就業者が増えたことからオンラインミーティングの利用者数は増加している。

オンラインミーティングを利用することにより、在宅勤

務やテレワークなど様々な働き方に対応可能であり、時間の有効活用や会議資料のコスト削減など多くのメリットが存在する。一方でCOVID-19による急速なオンラインミーティング導入も相まって、サービスツールの脆弱性、企業側と就業者側の双方の準備が十分に整っていない中での導入によるセキュリティ対策の不備、ユーザの不十分なITリテラシーなどが原因による攻撃やトラブルのリスクも指摘されている。また、オンライン上での会議であることから、通信環境などサイバー面での懸念点に加え、対面の会議とは異なる特有のコミュニケーションやサービスツールの利用法などユーザにとって新たな懸念点が浮き彫りになっている。企業側は、使用端末の管理を含むテレワーク環境の構築やユーザ間のコミュニケーションなどに常時気を配る

1 法政大学
Hosei University,
2 NTT 社会情報研究所
NTT Social Informatics Labs,

3 千葉工業大学
Chiba Institute of Technology,
a) rinako.umemoto.7s@stu.hosei.ac.jp

必要がある[2].

本論文では、現在のビジネスオンラインミーティングの利用状況から、今後のあるべき姿として、誰もが安心してオンラインミーティングの利点を享受できる環境実現への方法について提案する。具体的には、まず、ビジネスオンラインミーティングに対するユーザの意識調査を行う質問紙を作成した。ビジネスオンラインミーティングを利用したことのある社会人 726 名の回答を日本の産業別就業者の人員構成比を反映するようにして集めた。質問紙調査の結果を分析することにより、現状としてのユーザのビジネスオンラインミーティングの状況を明らかにするとともに、セキュリティ的懸念点解決のための方法について提案及び評価を行う。

以降、2 章では、オンラインミーティング利用の現状や課題など、関連動向について述べる。3 章では、セキュリティに関する意識調査として今回行った質問紙調査の設計及び結果について述べる。4 章では、調査結果の分析から提案及び考察を行う。5 章では本調査の限界を述べ、6 章で本論文を結ぶ。

2. 関連動向

2.1 オンラインミーティング利用の現状

近年、政府主導の「働き方改革」や COVID-19 の影響も相まって、オンラインミーティング利用の重要性は高まっている。感染症対策としてのテレワークの導入・実施に関して、2020 年 3 月 31 日に国土交通省から発表されたテレワーク人口実態調査によると、COVID-19 感染症防止策としてテレワーク実施の指示または推奨をされた人は 19.1% であった[3]。テレワークの増加に伴いオンラインミーティング用サービスツールの利用は急速に拡大している。米マイクロソフトは、サービスツール「Microsoft Teams」に関して、外出制限が本格化する前の 2020 年 3 月 11 日時点では 1 日あたりの利用者数が 3200 万人だったが、2021 年 4 月 27 日までで 1 日あたり 1 億 4500 万人を超え、図 1 に示すように 4.5 倍になったと報告している[4]。

また、同サービスの 1 日あたりの会議実行時間について、2020 年 3 月 16 日時点では 9 億分だったが、2020 年 3 月 31 日には 3 倍の 27 億分に上ったと報告している(図 2)[5]。一方でこのようなサービスツールの脆弱性やユーザの IT リテラシーの低さをついた攻撃やトラブルも増加している。

2.2 ビジネスオンラインミーティングの課題

ビジネスオンラインミーティングの利用に関する課題について述べる。オンラインミーティングの利用には様々なメリットがある一方で、課題も多く残されている。重要な課題としてセキュリティリスク増大への対策やリテラシー向上の必要性が挙げられる。まず、ツール利用に際して、脆弱性により参加しているはずのない第三者が妨害するといったケースも報告されており、セキュリティ上留意すべ

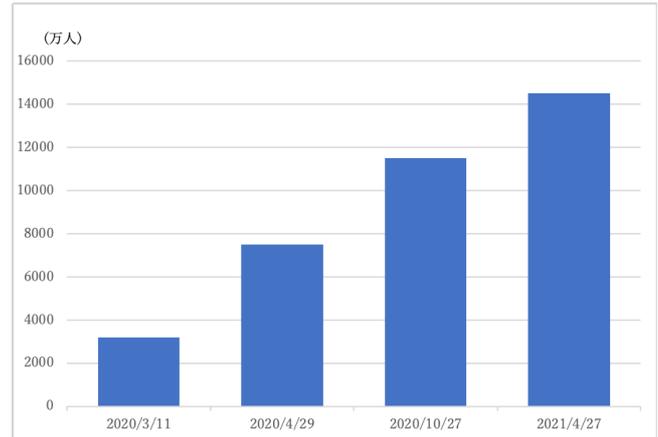


図 1 Teams の 1 日あたりの利用者数変化
(文献[3]をもとに著者作成)

Figure 1 Changes in the number of Teams users per day.
(figure from [3])

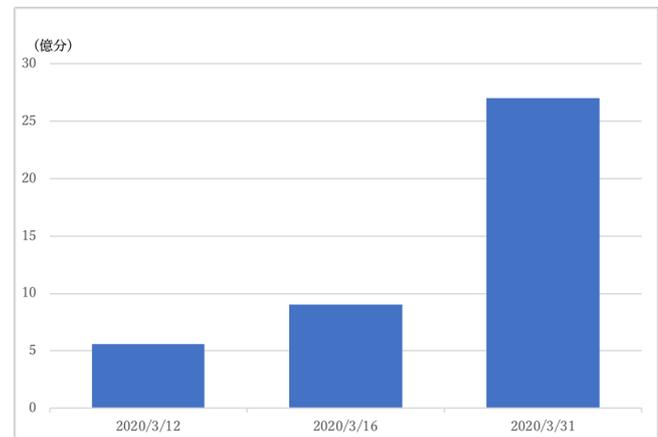


図 2 Teams の 1 日あたりの会議実行時間変化
(文献[4]をもとに著者作成)

Figure 2 Changes in meeting execution time of Teams per day.
(figure from [4])

きであると指摘されている[6]。また、ユーザのリテラシーも重要である。パスワードの設定や画面共有機能を主催者のみに設定できる機能、スクリーンショットにぼかしを入れる機能なども追加されており、これらをユーザが有効に利用できる IT リテラシーの向上も求められている。

3. セキュリティに関する意識調査

3.1 質問紙の設計

本研究では、オンラインミーティングユーザのビジネス利用に着目し質問紙を作成した。ビジネスオンラインミーティングユーザの利用環境、会議参加者の状況、主催者や管理者への信頼、ツールの使用などに対する懸念を明確にし、解消することにより、より有効なビジネスオンラインミーティングの利用環境を実現できると仮説を設定した。

構成としては、文献調査などを基に 35 項目の選択式設問と 5 項目の自由回答式設問を作成した。これらの質問項目の詳細は付録 A.1 に示す。

3.2 質問紙調査結果

3.1 節の質問紙設計の下、2021 年 2 月 3 日~2 月 6 日の期間において Web アンケート調査を行った（調査委託先:株式会社マクロミル）。今回の Web アンケート調査は、会社員や公務員、自営業者など一定規模以上の会社の従業員とし、20 代から 60 代以上のオンラインミーティング経験者 726 名を対象とした。そのうち、注意度チェックとして選択肢を指定したダミーの設問を混ぜることにより、整合性の取れていない回答者を除いた。その結果、518 名（有効解答率 71.3%）を対象データとして調査を進めた。なお、有効回答者の男女の割合は男性が約 74%、女性が約 26%であった。

なお、本調査では、ビジネスオンラインミーティングの定義を 2 人以上でのオンラインミーティングとし、同じ社内での 2 者間のビデオチャット（テレビ電話）やテキストのみの会話は含まないと設定した。また、オンラインでの文書作成や情報整理のみの作業はオンラインミーティングとはみなさないとした。調査実施においては、対象者の業種に関して、日本の産業別就業者の人員構成比と大きな差はないデータ母集団とした[7]。以下にアンケート調査結果を示す。

3.2.1 ビジネスオンラインミーティングの利用状況

Q1 のオンラインミーティングの利用頻度を聞いた結果では、5 時間未満が 45.8%と約半数を占め、5~10 時間未満が 33.6%であった。複数回の短時間の会議に加え、2 時間ほどの会議も数回行う割合が多く見受けられる。調査結果を図 3 に示す。

Q2 の主なオンラインミーティング場所を複数回答で聞いた結果では、カフェなどのオープンスペース(5.8%)やサテライトオフィス(7.1%)の利用よりも、自宅(78.2%)や自社の自席(57.3%)もしくは会議室など専用スペース(60.0%)を利用したミーティング参加が多いという特徴が見られる。テレワーク導入が進む中で自宅でのオンラインミーティング利用は増加してきたが、サテライトオフィスの利用は未だそれほど普及していないことがわかる。調査結果を図 4 に示す。

Q3 では利用しているツールの種類数を聞いた。その結果、1 種類が 38%、2 種類が 40.3%であった。セキュリティ上、利用サービスツールを制限している企業もあるが、多くても 3 種類のツールを利用している割合が多い[8][9]。調査結果を図 5 に示す。

3.2.2 ビジネスオンラインミーティングについての所感

まず、Q4 で質問したオンラインミーティングについての所感の調査結果を図 6 に示す。Q4-1 では、対面ミーティングよりもオンラインミーティングが心理的に疲れる割合が

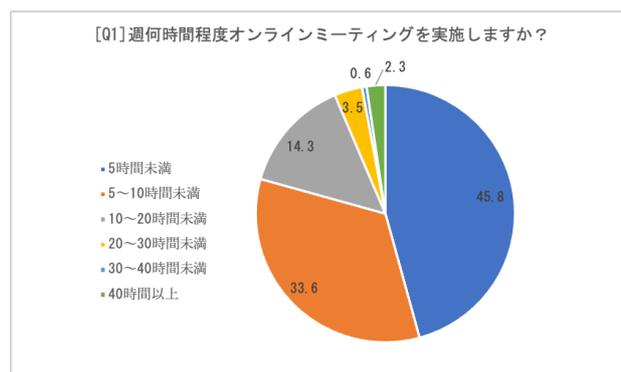


図 3 オンラインミーティング利用頻度 (n=518)
Figure3 Frequency of use of online meetings. (n=518)

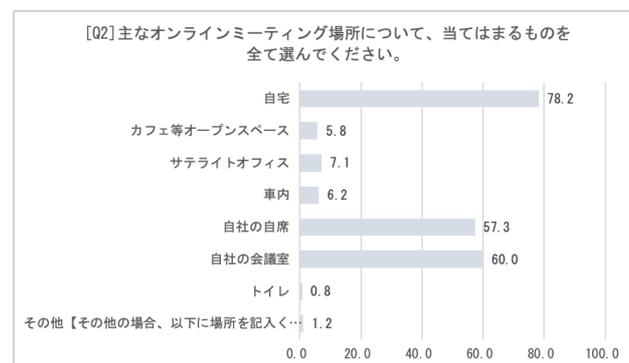


図 4 オンラインミーティング利用場所 (n=518)
Figure 4 Place of use of online meetings. (n=518)

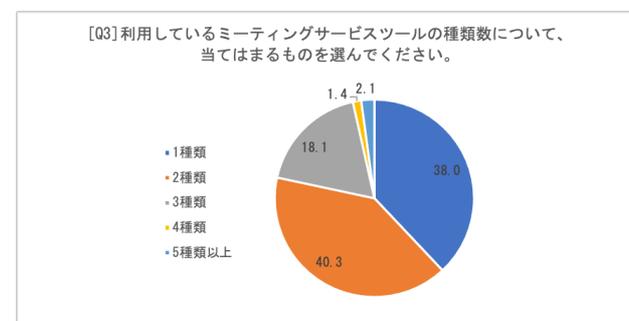


図 5 利用ツールの種類数 (n=518)
Figure 5 Number of types of tools used. (n=518)

40%、どちらとも言えないが 26.3%であった。従来の会議形式からの変化や利用法、セキュリティ面など心理的影響が疲労として存在していることがわかる。Q4-2 では、セキュリティ対策が十分だと強く思う割合は 4.8%と少なく、利用者自身も安全だと感じながら作業できる環境が課題であることが伺える。Q4-3 では、対面ミーティングに戻りたくないという割合は 16.8%と比較的低く、どちらとも言えないが 30.1%であり、Q4-1 や Q4-2 の心理的疲労やセキュリティ対策に対する懸念が影響していると考えられる。Q4-4 で

は、17.8%がオンライン飲み会は有効であると思うと回答した。Q4-5では、アフターコロナ環境での実施形態について、戻ると思うが26.6%、思わないが39%と大きな偏りはない結果となった。Q4-6では、バーチャル背景に関して、57.7%は有用と半数を占めた。ツール利用の際に自宅での利用が多いという点からも背後など写り込みの意識がされている傾向にある。

次に、Q5で質問したオンラインミーティング参加時にセキュリティ的に問題であると思うかについての調査結果を図7に示す。この図では、「かなり問題である」と「問題である」の回答割合の合計が大きい順、つまり質問事項に対して問題であると感じる割合が多い順に表示した。この割合が最も多いQ5-7は、ウイルス感染や盗聴被害による、参加者側の使用端末に保存された会議情報の漏洩であり、73%が問題であると回答した。Q5-6は、参加者側の環境（自宅や喫茶店など）からの情報漏洩であり、72.2%が問題であると回答した。Q5-26は、IDやパスワードが見破られ、ミーティングに侵入されることであり、70.8%が問題視しているとの結果を得た。これらに続いて問題であると思う割合が大きかった設問項目についても述べる。Q5-5では、接続ネットワークからの情報漏洩が68.3%、Q5-21では、自端末での画面共有時に、想定外のファイルが見られてしまうことが67.3%という結果が得られた。ネットワークを利用したミーティングであることから、ウイルス感染やサイバー被害について多くのユーザが意識していることがわかる。また、自宅や喫茶店など参加者側の環境からの情報漏洩という面で物理的な音声の漏洩や画面共有画面からの情報漏洩についても意識されている。さらに、問題であると思う回答の割合が少なかったものは、Q5-12が、顔や声が参加者に漏れることであり28.2%、Q5-20が、参加者一覧にプロフィールが表示されることであり36.7%、Q5-16が、参加時に周囲の人物が見えてしまうことであり37.6%であった。

映り込みに関しては、Q4-6の質問からもわかるようにバーチャル背景利用という点では意識がされていることがわかった。また、Q5-25では、セキュリティ設定条件や参加条件がよくわからず不安になるという質問に対して、47.7%が問題であると回答した。これらの結果から、オンラインミーティング利用に際して、情報漏洩に対する意識や危険性についての認識と同時に、ツールやセキュリティ対策に関する理解を深めることも重要であるとわかる。

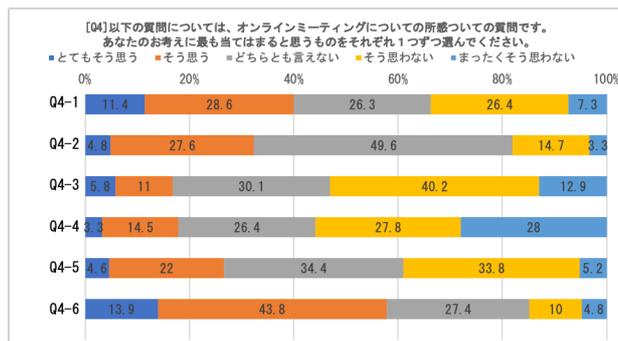


図 6 オンラインミーティングの所感 (n=518)
Figure 6 Impressions of online meetings. (n=518)

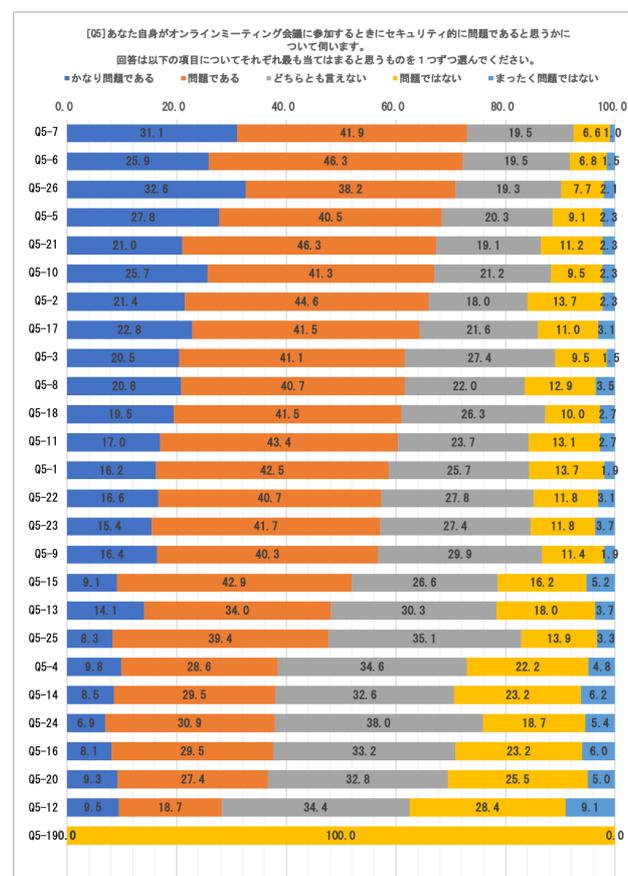


図 7 オンラインミーティング参加時の懸念点 (n=518)
Figure 7 Concerns about attending online meetings. (n=518)

4. セキュリティに関する意識の分析と提案

4.1 調査結果の分析と提案

4.1.1 ビジネスオンラインミーティングの利用状況

(1) 分析結果

今回の調査の結果、ビジネスオンラインミーティングの利用状況については、利用が週に5時間未満のユーザが約半数、5~10時間のユーザが約3割という結果であった。また、利用は自宅や自社専用スペースが多く、利用ツール数は1~2種類が大半であった。オンラインミーティングの利

用は増加しているが、サテライトオフィスからの利用者は少数となっている。さらに、他企業との会議の際、ツールに利用制限がある場合に手間が生じてしまう可能性が考えられる。

(2) 提案

この結果に対し、企業側からもサテライトオフィスの利用などをユーザに説明や提示を行うことでビジネスオンラインミーティング参加に整った環境が構築でき、ユーザにとって働き方の選択肢が広がる。また、各利用ツールについてもガイドラインなど利用説明を詳細に行うことで、様々な面で対応可能になり、より安心感を持って使用できるというメリットがある。

4.1.2 ビジネスオンラインミーティングについての所感

(1) 分析結果

ビジネスオンラインミーティング利用に関して、文献[10]からも参照されるように、コストや時間のロス削減、意思決定の迅速化など、オンライン利用特有のメリットも数多くあるなか、従来の方法や対応と異なるという点から心理的疲労を感じるユーザが一定数存在する結果となった。また、ネットワーク上でのミーティングという面でセキュリティ的な懸念点はあるが、具体的な対策や対応が周知されておらず、不安に感じるという回答が多くみられた。その中でも自宅からの利用が多いということから物理的な映り込みに関して意識しているユーザは多い結果であった。また、アフターコロナ環境での実施形態が戻ると思いうかについての結果には大きな偏りはなかった。

利用に際するセキュリティ的な懸念点では、サイバー攻撃をはじめとし情報漏洩に対する意識が高く、そのほか物理的な環境からの漏洩や使用端末からの漏洩に対して意識されていた。また、比較すると低い割合ではあるものの、画面共有や画面録画、プロフィールの公開などユーザのリテラシーに起因される懸念点も見られた。

(2) 提案

これらの結果に対し、セキュリティ的な意識は高いが、理解や共通認識を広めて対策に移すことも重要である。オンラインミーティングの利用ガイドラインの策定によって使用や設定に対する周知を行い、企業側も運用ルールを定めることで、ユーザのITリテラシーの向上及び維持に繋がりが各自がより安心してオンラインミーティングに参加することができる。さらに、各自が正確な認識のもと参加することにより、全ユーザに対して場所や端末など働き方の選択肢が広がるというメリットがある。また、アフターコロナ環境としてオンラインミーティングの利点と対面ミーティングの利点を双方活用できるハイブリット形式を取り入れることで、より生産性の向上が期待できる。日々のセキュリティ的脆弱性の増加に合わせ、他企業の取り組みや政府の政策など様々な事例や各ツールを比較検討することでより安定感のある利用環境を構築でき、ユーザの使いやす

さという観点においても充実が期待される[11][12][13]。

4.2 提案実施の机上評価

4.2.1 ビジネスオンラインミーティングの利用状況

4.1.1の提案により、サテライトオフィスの利用など環境の選択肢を用意することで、ユーザにとって働きやすく、結果として生産性の高さを得ることができる。自宅の状況や自身の状態に合わせて対応可能になることでよりセキュリティ的にも安心して利用でき、懸念点を減らすことができる。また、各ツールのガイドラインなどを共有することにより各自が確実な認識のもと主体的に参加することが可能になり、ミーティング参加時のトラブル解消が期待できる。

4.2.2 ビジネスオンラインミーティングについての所感

オンラインミーティングの利用ガイドラインを策定及び、運用ルールの設定・再確認により、ユーザのITリテラシーの向上や維持につながる。セキュリティ的な懸念点を実際に解消するため行動に移すには、セキュリティに関する理解や共通認識が根本として必要である。そこで、日々移り変わるセキュリティ的脆弱性などに対する定期的な講習会や、導入制度の説明などは有効である。また、オンライン上での参加であるため、情報公開の許容範囲など個人個人のツール利用に対する感覚に左右される事柄も存在するが、その点に関してユーザ個人のリテラシー向上及び維持による解消が期待できる。運用ルールの設定によりオンラインミーティングのあり方を再度見直すことができ、ユーザにとっても安心して利用しやすい形への変化が期待できる。

さらに、アフターコロナ環境としては、オンラインと対面のハイブリット形式として取り組んでいくことで、更なる生産性の向上が期待でき、オンラインミーティング利用に対する心理的な疲労やストレスの解消とともに誰もが安心して利用することができる環境実現につながる。

5. 本調査の限界

本調査の限界を以下に述べる。本調査では、Webアンケート調査としてビジネスオンラインミーティングを利用したことのある就業者を対象とし、セキュリティ的な懸念点や利用状況を調査した。オンラインミーティング主催者や企業側に対しては明確に焦点を当てるのが困難であり、ミーティングに関して異なるセキュリティ上の懸念などが存在すると考えられるため、今後の課題としたい。

また、今回の調査ではオンラインミーティングユーザを一括りとして捉え分析に取り組んだため、性別や業種別、オンラインミーティング支持層と対面ミーティング支持層など観点を複数合わせて取り組むことで、普遍的な状況を把握でき、より高次のビジネスオンラインミーティング環境実現へと寄与可能であると考えられる。

さらに、質問紙に含まれる自由回答式設問に対する分析及びその結果からの提案も今後の課題である。

6. おわりに

政府主導の「働き方改革」や COVID-19 の流行が相まって、ビジネスオンラインミーティングの利用は拡大しているなかで、ユーザのセキュリティに関する意識調査を行うため、オンラインミーティングを利用したことのある社会人 726 名を対象に Web アンケート調査を実施した。その結果、オンラインミーティングの利用は自宅や自社専用スペースが大半であり、ミーティング利用に際してはサイバー的な面での情報漏洩や物理的な面での情報漏洩、ユーザの IT リテラシーに起因するセキュリティ的懸念点が存在することが明らかになった。さらに、セキュリティ的な問題を意識はしているが、個人で詳細な理解や対策には至っていない割合が高いことがわかった。

これらの調査結果をもとに分析した結果、誰もが安心してオンラインミーティングの利点を享受できる環境実現への提案を行った。利用状況では、各自の心理的疲労を極力減らした状況での利用が重要であり、サテライトオフィスの提示や各ツールのガイドライン共有により、ユーザが安心して働くことができる選択肢を増やし、ツールについて共通認識を持った上での主体的な利用が有効であることを示した。利用に関する所感では、オンラインミーティング利用のガイドラインの策定や、運用ルールの再度確認及び設定を行うこと、利用者の IT リテラシーの向上及び維持が有効であることを示した。これらに対し、机上評価によりその有効性を明らかにした。

参考文献

- [1] 厚生労働省, ”「働き方改革」の目指すもの”, <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000148322.html>, (参照 2021-08-15).
- [2] H.Koyama, Y.Nakagawa, S.Tanimoto, T.Endo, T.Hatashima, A.Kanai, Risk Assessment of Telework for the New Normal Era, 2021 IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE2021), to be published.
- [3] 国土交通省, ”令和元年度テレワーク人口実態調査”, <https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/content/001338545.pdf>, (参照 2021-08-15).
- [4] 日本経済新聞 2021 年 4 月 28 日. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN280HA0Y1A420C2000000/>, (参照 2021-08-15).
- [5] Microsoft365, ”Remote work trend report: meetings”. <https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365/blog/2020/04/09/remote-work-trend-report-meetings/>, (参照 2021-08-15).
- [6] 独立行政法人情報処理推進機構, ”Zoom の脆弱性対策について”. <https://www.ipa.go.jp/security/ciadr/vul/alert20200403.html>, (参照 2021-08-15).
- [7] 労働政策研究・研修機構, ”産業別就業者数”. <https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/chart/html/g0004.html>, (参照 2021-08-15).
- [8] 一般社団法人共同通信社 2020 年 11 月 26 日. <https://nordot.app/704603698704122977?c=113147194022725109>, (参照 2021-08-15).
- [9] エイネット株式会社, ”FreshVoice Web 会議の基礎知識”. <https://www.freshvoice.net/knowledge/news/8761/>, (参照 2021-08-15).
- [10] NTT コミュニケーションズ株式会社, ”ビデオ会議を導入する 5 つのメリット”. <https://www.ntt.com/business/services/voice-video/uc-conferencing/conferencing/introduction/1.html>, (参照 2021-08-16).
- [11] 総務省, ”テレワークセキュリティガイドライン第 5 版”. https://www.soumu.go.jp/main_content/000752925.pdf, (参照 2021-08-16).
- [12] kaspersky, ”ビデオ会議アプリをサイバーセキュリティ面から見る”. <https://blog.kaspersky.co.jp/videoconference-software-security/28229/>, (参照 2021-08-16).
- [13] 独立行政法人情報処理機構, ”Web 会議サービスを使用する際のセキュリティ上の注意事項”. <https://www.ipa.go.jp/security/announce/webmeeting.html>, (参照 2021-08-16).

付録

付録 A.1 質問紙

本調査は、あなたがオンラインでミーティングを行われるときのセキュリティ意識について、あなたのお考えを伺う調査です。

本調査ではオンラインでミーティングをする場合についてのみ伺います。オンラインでのミーティングを含まない、在宅勤務や出張先での勤務などのテレワークは対象外です。

Q1 週何時間程度オンラインミーティングを実施しますか。

1. 5 時間未満
2. 5~10 時間
3. 10~20 時間
4. 20~30 時間
5. 30~40 時間
4. 40 時間以上

Q2 主なオンラインミーティング場所について、当てはまるものを全て選んでください。

1. 自宅
2. カフェ等オープンスペース
3. サテライトオフィス
4. 車内
5. 自社の自席
6. 自社の会議室
7. トイレ
8. その他

Q3 利用しているミーティングサービスツールの種類数について、当てはまるものを選んでください。

1. 1 種類
2. 2 種類
3. 3 種類
4. 4 種類
5. 5 種類以上

Q4 以下の質問については、オンラインミーティングについての所感についての質問です。あなたのお考えに最も当てはまると思うものをそれぞれ 1 つ選んでください。

1. とてもそう思う
2. そう思う
3. どちらとも言えない
4. そう思わない
5. 全く思わない

Q4-1 オンラインミーティングは、実際に対面するミーティングよりも、心理的に疲れる

Q4-2 現在のオンラインミーティングシステムはセキュ

リティ対策が十分だと思う

Q4-3 もう対面のミーティングには戻りたくない

Q4-4 オンライン飲み会は有益だと思う

Q4-5 アフターコロナ環境でのミーティングの実施形態は、コロナ禍前のやり方（対面主体）に戻らと思う

Q4-6 バーチャル背景について有用だと思う（バーチャル背景とは、自分の背後の映像を隠して、自分の身体と好きな画像だけを表示させる機能を指します）

Q5 あなた自身がオンライン会議に参加するときにセキュリティ的に問題であると思うかについて伺います。回答は以下の項目について、それぞれ最も当てはまると思うものを1つずつ選んでください。

1. かなり問題である
2. 問題である
3. どちらとも言えない
4. 問題ではない
5. 全く問題ではない

Q5-1 オンラインミーティングの会議室情報（URL等）やID、パスワードの部外者への漏洩

Q5-2 権利のない参加者の存在

Q5-3 サービス提供者（サービス運営者側（Zoom社、Webex提供のCisco社など））への情報漏洩

Q5-4 ミーティング主催者への情報漏洩

Q5-5 接続しているネットワークからの情報漏洩（盗聴等）

Q5-6 参加者側の環境（自宅、喫茶店など）からの情報漏洩

Q5-7 ウイルス感染や盗聴被害時などサイバー被害による、参加者側の使用端末に保存された会議情報（会議ファイル等）の情報漏洩

Q5-8 家族が利用するなど、参加者側の使用端末に保存された会議情報（会議ファイル等）の情報漏洩

Q5-9 待機室やブレイクアウトルーム等の参加者の割り振りミスによるブレイクアウトルームに限った情報漏洩

Q5-10 ミーティング主催者の無断録画による会議情報の漏洩

Q5-11 参加者環境でのショルダーハッキング（背後からの覗き見）

Q5-12 自分の顔や声に参加者に見られたり聞かれたりすること

Q5-13 自分の顔、声、プロフィールなどがサービス提供者（サービス運営者側）に漏洩すること

Q5-14 参加時に自分の背景が映って参加者に見えてしまうこと

Q5-15 参加時に自分の周りの音に参加者に聞こえてしまうこと

Q5-16 参加時に自分の周りの人物が参加者に見えてしまうこと

Q5-17 会議が知らないうちに録画されているかもしれないこと

Q5-18 ミーティング内容のサービス提供者（サービス運

営者）への漏洩

Q5-19 本質問は特に内容はあります。回答は”問題ではない”と答えてください

Q5-20 参加者一覧にプロフィールが表示される、自分の映像の一部にプロフィールが表示されるなど、参加時のプロフィール（名前、所属等）が参加者に見られてしまうこと

Q5-21 自端末からの画面共有時に、想定外のファイルや画面を共有してしまい、参加者に見られてしまうこと

Q5-22 プレゼンテーション資料を共有する場合、利用している画像や資料が、著作権の侵害になること

Q5-23 どんな人が参加しているのか正確に把握できないこと

Q5-24 他の参加者の環境（端末や作業環境）がわからないこと

Q5-25 セキュリティ設定条件や参加条件などがよくわからず不安になること

Q5-26 ID やパスワードが破られ、ミーティングに悪意を持って侵入されること

Q6 あなたがオンラインミーティングに参加するとき、対面でのミーティングと比較して、どのような点がセキュリティ的に気になりますか[自由回答]

Q7 現在のオンラインミーティングシステムのセキュリティシステムについて、どのような点が不十分だと思いますか[自由回答]

Q8 オンラインミーティングに参加する権利のない人（背後の人物、参加予定にない人が参加等）が存在することがわかったときや参加者の参加環境（自宅、喫茶店等）が気になる場合、どのような対応を取りますか[自由回答]

Q9 オンラインミーティングサービス提供者（運営者側）やミーティング管理者（主催者）への情報漏洩が気になる場合、どのような対応を取りますか[自由回答]

Q10 あなたがオンラインミーティングに参加するとき、どのような場合にバーチャル背景を利用しますか[自由回答]